

PROGRAM

優雅な月よ.....	ベッリーニ	樹木の蔭で(ラルゴ).....	ヘンデル
マリンコニア.....	ベッリーニ	私を泣かせて下さい.....	ヘンデル
もし私が出来ないなら.....	ベッリーニ	宵待草.....	竹久夢二 作詩 多忠亮 作曲
私の偶像よ.....	ベッリーニ	野ばら.....	北原白秋 作詩 山田耕筰 作曲
「ルクレティア・ホルジア」より.....	ドニゼッティ	庭の干草.....	アイルランド民謡
なんと美しい		「ノルマ」より.....	ベッリーニ
「ラ・ボエーム」より.....	ブッチーニ	〈浄き女神〉.....	ベッリーニ
〈ムゼッタのワルツ〉.....	ブッチーニ	「ジャンニ・スキッキ」より.....	ブッチーニ
「蝶々夫人」より.....	ブッチーニ	〈わたしのお父さん〉.....	ブッチーニ
〈ある晴れた日に〉.....	ブッチーニ	「蝶々夫人」より.....	ブッチーニ
「トゥーランドット」より.....	ブッチーニ	〈かわいい坊や〉.....	ブッチーニ
〈氷のような姫君の心も〉.....	ブッチーニ		

インタビュアー 玉川 昌幸

四季のコンサート 冬

1992年3月7日(土) PM6:45

浜松市民会館ホール

主催：浜松音楽友の会

東京芸術大学卒業。同大学院修了。柴田睦隆氏に師事。1968年1日音楽コンクール第1位。イタリア政府の奨学生としてミラノに留学。ヴェルディ音楽院、スカルラティ音楽院、スカルラティ科で研鑽を積み、1971年、ヒツコ・スカルラティモーツァルトの『恋の花くら』でデビュー。72年、RAI主催のロッシーニ生誕180年記念コンクールに優勝。同年スカルラティに『蝶々夫人』でデビューし、全ヨーロッパ、オペラ界注目の存在となる。73年にはスコット・リッパ・カチンで『ドン・ジョヴァンニ』、フランドスのエクス・アン・プロヴァンスで『ルイザ・ミラー』、と次々に活躍の場とシバトリをひろげる。

以来、ロヴェント・カチン国立歌劇場、ミュンヘン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、オランダ・ロッパルチア人、ニューヨークタジョの『蝶々夫人』（タリ・モルタ）で出演を重ねている。

日本では、1982年藤原歌劇団公演『アツチ・ホレーナ』で大成功を収め、毎日芸術賞、第10回シロー・オペラ大賞を受賞。続いて84年の『アリ・アストラルタ』でも絶賛を博し、日本のオペラ界に衝撃を与えた。その後も『アン・レ・スコア』、『メル・トロヴァレ』、『蝶々夫人』、『ドン・カルロ』、『アータ』、『ドン・ジョヴァンニ』と一時帰国してオペラ出演を続けるかたわら、リサイタルやコンサート・ホール3周年から、コンサート、新里日本交響楽団定期コンサート、『ライエム』ほか各種コンサートで活躍している。

望みの『蝶々夫人』の成功により89年第20回シバトリ音楽賞受賞。受賞記念コンサートを東京と大阪で行い絶賛され、ヴェルディを得意とするほか、ドニゼッティやベッリーニなどのベルカント・オペラをシバトリとする。

ミラノ在住。藤原歌劇団団員。

707-1 林 康子(はやし やすこ)



林 康子
ソプラノリサイタル

ピアノ 村上尊志

ベッリーニ (1801~1835)

「ノルマ」や「清教徒」というオペラで有名なベッリーニは、19世紀イタリア・オペラの代表的な作曲家のひとりである。彼の音楽的な特徴は、メロディーの美しさにある。それは、ピアノの詩人ショパンにまで影響を与えるほどのものであったと言われている。〈優雅な月よ Vaga luna, che inargenti〉は、1828年に作曲された歌曲。〈マリンコーニア Malinconia〉〈もし私が出来ないなら Almen se non poss'io〉〈私の偶像よ per pietà, bell'idol mio〉の3曲は、1829年にまとめられた歌曲集〈6つのアリエッタ〉におさめられているものである。いずれの曲も熱烈な恋の歌である。

ドニゼッティ (1797~1848)

オペラ「愛の妙薬」や「ルチア」などで有名なドニゼッティは、ロッシーニ、ベッリーニと並んで、19世紀イタリア・オペラ界をリードした作曲家のひとりである。〈なんと美しい Come e bello〉は、1833年に作曲されたオペラ「ルクレツィア・ボルジア」のプロローグで歌われるアリアである。このオペラは、ルネサンス時代にボルジア家の公妃として生まれたルクレツィアをめぐる悲劇を題材としたものである。

ブッチーニ (1858~1924)

ブッチーニはヴェルディと共に、19世紀イタリア・オペラにおける最高の作曲家とされており、イタリアの伝統的な旋律性とドラマチックな劇性を融合して、独自のオペラを作り出した。〈ムゼッタのワルツ Quando me'n vo〉は、1895年に作曲されたオペラ「ラ・ボエーム」の第2幕で、ムゼッタが自分の美しさを誇って歌うアリアである。なお、若い芸術家達の生活を見事に描き出したこのオペラは、「蝶々夫人」「トスカ」と共に、ブッチーニの三大オペラのひとつと言われている。

〈ある晴れた日に Un bel di vedremo〉は、長崎を舞台にしたオペラ「蝶々夫人」(1904年作曲)の中で、必ず帰ってくると約束した夫ピンカートン(海軍中尉)をただひたすら待ちこがれて歌う蝶々夫人のアリアである。聴く者の心を揺さぶるブッチーニ特有の名歌中の名歌と言ってよいであろう。人を愛すること、人を信ずることを、これ程までに美しく悲しく歌ったアリアもめずらしい。

〈氷のような姫君の心も Tu che di gel sei cinta〉は、中国の北京を舞台にしたオペラ「トゥーランドット」の第3幕で、王の供の奴隷リュウが自害する直前に歌うアリアである。この作品はブッチーニ最後のオペラで、1924年に未完のままに終わってしまったが、草稿に基づいて弟子が完成し、1926年にトスカニーニの指揮で初演された。

ヘンデル (1685~1759)

ヘンデルはバッハと共に、バロック時代(1600頃~1750頃)最大の作曲家である。ドイツ人のヘンデルは、ドイツ、イタリアで活躍した後、イギリスに渡り、1727年にはイギリスに帰化してしまった。当時のあらゆる分野の作品を書いたが、特にオペラやオラトリオなどの劇的な声楽曲を得意とした。

〈樹木の蔭で Ombra mai fu〉は、1738年に作曲されたオペラ「セルセ」の第1幕で、主人公のペルシャ王セルセが庭園の木蔭で愛を歌うアリアである。テンポの指示がラルゴ Largo であることから、「ヘンデルのラルゴ」としても有名である。

〈私を泣かせて下さい Lascia ch'io pianga〉は、1711年に作曲されたオペラ「リナルド」の第2幕で、十字軍の騎士リナルドの婚約者アルミナーレが悲しい運命を嘆いて歌うアリアである。

多 忠亮 (1895~1929)

〈宵待草〉を作曲した多忠亮は大正から昭和初期にかけて、作曲家としてではなく、ヴァイオリン奏者として活躍した人である。また、作詩者の竹久夢二も、詩人としてよりも美人画の作者として有名な人である。このような二人のコンビによる小さな詩とメロディーが、多くの人々の心をとらえ今でもよく歌われている。

山田耕筈 (1886~1965)

〈野ばら〉は1917年に作曲された。この歌曲の持つ不思議な魅力は、長くのばされた音の美しさ、同じ音楽的動機を反復することの芸術的意味といったものから生み出されている。まるで北国の澄み切った空気が、直接肌に伝わってくる思いのする歌である。「神の聖業を誉め讃える敬けんな祈りの声」として作曲したそうである。

アイルランド民謡

〈庭の千草〉の原曲はアイルランド民謡である。ドイツの作曲家フロトーが1847年に作曲したオペラ「マルタ」の第2幕で歌われてから有名になり、日本でも〈庭の千草〉としてよく知られている。

ベッリーニ

〈清き女神よ~我が胸に帰れ Casta diva~Ah bello a me ritorna〉は、1831年に作曲されたオペラ「ノルマ」の第1幕で歌われる。〈清き女神よ〉の部分は静かな祈りの歌。途中を少しとばして歌われる〈我が胸に帰れ〉の部分は速いテンポの歌。「ノルマ」は、ベッリーニのオペラ中もっとも有名な作品で、紀元前50年頃、ローマの支配下にあったガリア地方を舞台に、ドルイド族の巫女ノルマが、禁制を破ってローマの将軍と恋に落ちたことから起こる悲劇を扱ったものである。